2024年6月25日発行　年4回発行　通巻115号　PRINT ISSN 1341-545X　ONLINE ISSN 2189-5023

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 30, No. 2　神奈川県立生命の星・地球博物館　Jun. 2024

硫黄島の新島の噴火

東京都小笠原村硫黄島
2023年11月24日 12時14分
山下 浩之撮影

山下（やました） 浩之（ひろゆき）（学芸員）

2023年11月に、東京大学大気海洋研究所の調査船「白鳳丸」による、KH23-09航海が実施されました。この航海では東京港を出港して、目的地のマリアナ海溝まで4日間かけて南下しました。東京港からマリアナ海溝までの最短ルートは、火山前線である七島（しちとう）－硫黄島海嶺（いおうとうかいれい）に沿って南下するコースです。

硫黄島の東を通りかかった時、島の南方に白色の噴気が上がっているのが確認できました。しばらく白煙を眺めていると、突然黒煙が上りました。火山の噴火です。黒煙の後ろに見える山が硫黄島最高峰の摺鉢山（すりばちやま）（172 m）ですので、噴煙の高さは200 mくらいはありそうです。後でわかったことですが、この噴火が起きていた新島（しんとう）は、硫黄島の約1 km南にあり、噴火の形態はマグマ水蒸気爆発だったようです。噴火は5分から6分間隔で頻繁に起きていました。硫黄島の後は南硫黄島も見ることができ、2021年開催の特別展「絶海の自然 －硫黄列島をゆく－」を懐かしく思いながら調査地に向かいました。

生命の星・地球博物館の30年間を振り返る

佐藤 武宏（学芸部長）

図1. 神奈川県立生命の星・地球博物館. 時空を超えた遥かな旅へ人々を案内する乗り物をイメージして設計された.

1995（平成7）年に開館した生命の星・地球博物館（図1；以下、当館）は、まもなく開館30周年を迎えます。

当館の歴史

当館は、1967（昭和42）年に横浜市中区の馬車道地区に開館した神奈川県立博物館（図2）をその前身としています。この時期は1968年が明治100周年に当たるため「明治100年記念事業」の一環として日本各地にたくさんの博物館が開館したとされています。開館後の1970年代、1980年代は、日本が経済的に大きく発展した時期であり、科学が飛躍的に進歩した時期にも相当します。これらのことが後押しとなり、1986年に神奈川県は、それまでの総合博物館を人文系と自然系の2つの新しい博物館に再編整備する、という大きな計画を決定しました。県西部に県民が集まる施設がほしいという県や地元の要望もあり、自然系の博物館が箱根の入り口に位置する小田原市入生田に新しく建設されることが決定したのが1988年のことです。その後、博物館開設準備室の時期を経て、1995（平成7）年3月20日、開館記念式典が執り行われ、翌21日から一般公開が始まりました。これだけの大プロジェクトであったにも関わらず、テレビや新聞をはじめとするマスメディアの扱いは残念なことに非常にささやかなものでした。なぜなら、開館日である3月20日に東京都内の地下鉄駅構内で同時多発無差別テロ事件、いわゆる地下鉄サリン事件が発生しており、事件の全貌が明らかになっていない中、メディアの注目はこの事件に集中していたためです。

図2. 神奈川県立博物館（現・神奈川県立歴史博物館）. 現在の三菱UFJ銀行の前身の一つである, 横浜正金銀行本店の建物が利用されている. 国指定重要文化財・史跡. 神奈川県立歴史博物館提供. KPM-CZ3007589.

30年間の活動

開館した当時の当館は、約1万点の展示資料（図3）を含む、神奈川県立博物館から引き継いだ約20万点の資料を収蔵していました。それまでの約2倍の人数になった私たち21名の学芸員は、博物館法の趣旨に則り、積極的に資料を収集し、その資料に基づく調査研究を進め、その成果を特別展や企画展、講座や講演会などで広く外部に発信するという業務を着実に進めてきました。これらの業務を指して、いつしか私たちは『博物館の仕事、学芸員の仕事は「集める」「調べる」「伝える」です』と紹介するようになり、この3つの仕事が一直線に繋がっていること、つまり、学芸員の視点では、資料を集め、その集めた資料を調べ、調べた結果を伝えることがよい博物館であり、利用者の視点では、利用者の知りたいこと学びたいことを受け取るために、博物館はさまざまなことを調べ、それに必要な資料を幅広く集めている、という考え方が浸透してきました。このような着実な歩みを30年間にわたって続けてきた結果、資料は実物資料約80万点（図4）と画像等のデジタル資料約40万点の合計約120万点に達し、約2,700編の学術的著作を上梓し、累計で約800万人を超える入館者をお迎えするという成果を上げることができました。この期間内に開催した特別展と企画展は約100回に上ります。

この数字は館職員の努力によってのみ成し遂げられたものではありません。例えば、資料の多くはコレクターの方々からの寄贈品に拠っていますし、その資料整理には累計活動人数約7万5千人に達するボランティアの方の活動に支えられています。外部の方による資料の利用は、学術利用が累計で約120万点、展示や報道等での利用が約10万点を数えていますし、講座や観察会の参加者といった入館者以外の利用者も累計で約24万人に達しています。県民のみなさまをはじめとする多くの博物館のサポーターが博物館を信頼し、信用してくださった、その賜物が今の当館をつくり上げてきたのです。当館の活動の結果は、概要、年報としてウェブサイトで公開していますが、これらを作成する作業をしていると、いかに博物館が多くの方々に支えられているかをひしひしと実感させられ、身の引き締まる思いがします。

苦しい時やつらい時も

一方で、当館の30年は、必ずしも順風満帆続きだったわけではありません。長く続いた景気低迷の影響を受け、県財政が縮小し続ける時期を経験してきました。当館も限られた予算で何ができるか、どのように館業務を進めていくか、その都度その都度試行錯誤しながら苦難の時期を乗り越えてきました。箱根の入り口という人の流れが活発な場所に立地しているため、観光施策の強化や箱根ジオパークの認定などによって観光客が増加し、その余得で来館者が増加するというメリットがある一方で、箱根火山の活動が活発になればその影響を受けて来館者が減少するといったデメリットも経験しました。

2011（平成23）年には東日本大震災が発生しました。幸いにも展示資料を含む収蔵資料に大きな被害はありませんでしたが、地震の影響による交通混乱や輪番停電（計画停電）の影響等

図3. 当館の生命展示室. 生命の多様性を多数の展示標本を用いて紹介している.

のため当館も臨時休館を余儀なくされました。2020（令和2）年以降は新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的としたさまざまな対策を施すこととなりました。2度にわたる臨時休館や、団体の受け入れ中止、予約制入館の実施など、いわゆる「コロナ禍」の影響に約3年間振り回されました。2021（令和3）年度には、当館は約半年間臨時休館をし、空調等改修工事を実施しました。地震、コロナ禍、臨時休館が理由で、それまで毎年遠足や修学旅行で来館してくれていた学校が行き先から当館を外すようになったり、毎週のように活動してくれていたボランティアの方がモチベーションを失い博物館を去ることになったり、外部研究者の来館をお断りせざるを得なくなったことをきっかけに関係性が薄れていったりといった、つらい別れもありました。

これからの博物館が求められるもの

このように追い風の時もあれば、向かい風の時もあった30年間でしたが、とりわけ昨年2023（令和5）年は、当館のみならず博物館業界全体にとって大きな転換期となる一年となりました。1951（昭和26）年に公布され1952（昭和27年）に施行されて以来、およそ70年間にわたって大きな改正がなかった「博物館法」が、2022（令和4）年に改正公布され、2023（令和5）年4月に施行されました。法律の改正による設置者要件の拡大、博物館登録審査基準の見直し、活動の改善向上の仕組み導入なども大きな話題となりましたが、博物館の新しい役割として、地域や他分野との連携や課題解決、人材育成などが明示されたことも話題となりました。しかし、これらの新しい役割が、「集める」「調べる」「伝える」という博物館の根幹をなす業務に取って代わったわけではありませんし、今までの業務に費やしていたリソースやエフォートの相当な部分を新しい役割に注ぎ込め、というものでもないでしょう。2024（令和6）年3月に改正博物館法に基づく登録博物館として登録を受けた当館は、法の趣旨をよく理解し、今後も自然史科学に関する資料を集め、集めた資料を調べ、その結果を広く伝え、その延長上で社会の求めに応じて新しい役割を果たしていこうと考えています。

また、昨年2023（令和5）年は、違った意味で博物館が大きな注目を浴びた年となりました。国立科学博物館が目標額1億円のクラウドファンディングを実施したところ、開始わずか9時間で目標額に達しただけでなく、最終的には約5万7千人の支援者から約9億2千万円もの資金が集まったのです。これは国立科学博物館だからこそなし得た快挙であり、全国のさまざまな博物館も同様にクラウドファンディングによって資金を集めればよかろう、というのは早計（そうけい）です。しかし、このことをきっかけに、多くのみなさまが博物館に注目し、博物館の窮状（きゅうじょう）を理解し、博物館はどうあるべきか、博物館に何を期待するかということを考えてくださったことは大変有り難い出来事だったと感じています。

展示を取り巻く環境も、技術の進歩によって大きく変化してきています。最近ではXR（クロスリアリティ）のような画像処理技術を導入したり、解説パネルだけでは得られない追加情報をBYOD（来館者が持参するデバイス）を利用して提供するように大規模な展示リニューアルを実施した博物館も登場してきています。オンラインで展示を体験できるしくみは、インクルーシブ的にも大きな意義があると考えています。とはいえ、本物の展示物の価値とその魅力はこの先も永久に色褪せないと考えています。

30周年記念特別展を開催します

開館30周年を迎えるにあたり、2024（令和6）年7月13日（土）から11月4日（月・祝）にかけて、30周年記念特別展「生命の星・地球博物館の30年 －120万点から厳選した資料で振り返る－」と題し、これまで集めてきた資料を用いて、過去から現在にわたる当館の活動を紹介したいと考えています。この特別展は、これまでの活動を紹介するだけでなく、今後も資料に根ざした活動を地道に続けていくという当館の決意表明でもあります。これまで一度も展示していなかった資料、過去の特別展で展示し好評を博した資料、学術的に大きな成果を上げた研究を支えた資料、県立博物館から当館まで長い間にわたって使われてきている展示資料（図5）、多くの人びとの学びを支えた資料など、たくさんの資料とそれにまつわる活動を紹介いたします。どうぞご期待ください。

図4. 実物資料を収蔵する収蔵庫. 免震対策を施した床に置かれたスチール製ラックに標本を配架し，収蔵効率を高めている.

図5. ハマオモトの展示資料（模型）. 右上は県立博物館時代のジオラマ展示. 精巧につくられた質の高い展示資料は，半世紀を経てなお色褪せない.

名前調べが難しい昆虫をどうやって調べるか？

渡辺 恭平（学芸員）

はじめに

私たちが自然を認識するときに、対象の名前を調べる作業が必要となります。生き物の場合、そのことを同定といいます。皆さんの中にも、きっと図鑑を使って生き物の種名を調べたことがある方もいると思います。その作業が同定です。

昆虫の仲間は、身近で種数も多いため、図鑑やハンドブックなど、同定のための資料が充実している生き物です。しかしながら、種数が桁外れに多いことや、体が小さいもの、互いによく似ているものがいることから、本格的に調べれば調べるほど、困ることが良くあります。私が専門とするハチの仲間はその筆頭です。今回は、図鑑で判らないような昆虫を調べるときに、私がどのように調べているのかを紹介します。

図1. 図鑑（左）や解説資料（右）の例. 組み合わせて使うことで, 単体を用いるよりも容易に同定ができる.

困ったら解説資料や論文を探す

図鑑などがある分類群は、研究が進んでおり、情報が豊富にある生き物です。チョウやトンボのような分類群であれば、良い図鑑があるため、それを読むだけでもなんとかなりますが、図鑑があっても載っていない種がいたり、使ってみても判らない分類群も存在します。図鑑など、書店で販売されている書籍では、読者層などをふまえた販売予定数や、どんな紙で何部刷るかといった印刷代を、計画段階でよく検討します。ページ数が増えれば増えるほど情報が増やせますが、あまり高価だと買う人は減ってしまいます。また、売れるためにはデザインも重要です。ですから、図鑑の解説はその生き物の情報が簡潔に要約されたものと考えることが肝要です。

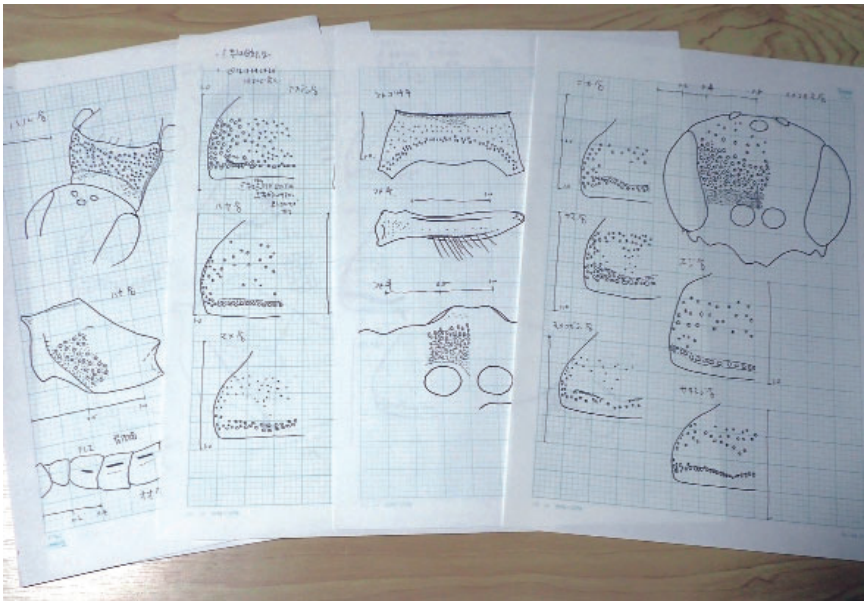


図2. 同定の難しいコツチバチ科を勉強するために著者が描いたスケッチ. 描くことで特徴がより深く理解できる.

図鑑だけで調べられない場合は、まず学会や同好会、大学や博物館の紀要などに掲載されている解説資料や論文を調べて、図鑑に無い情報を集めます。研究者の中には、調べるための解説資料を出している方がおり、その資料を活用すれば、図鑑単体よりもはるかに容易に調べることができます（図1）。そして、地域にどれだけの種がいるのかを調べる作業も重要です。例えば、神奈川県は甲虫の仲間がかなりしっかり調査されているので、県内の昆虫の記録をまとめた「神奈川県昆虫誌」から、掲載されている種を予めリスト化しておけば、候補を絞り込めますし、図鑑に載っていない種の存在も把握することができます。本の参考文献リストやインターネットを駆使して関連する文献を集め、種のリストに解説や論文の情報を結びつけて、ノートを作ります。これと図鑑（あれば）を併用すれば、多くの昆虫では驚くほど種名調べが容易になりますし、図鑑だけで同定できる昆虫も、より正確かつ簡便に同定できるようになります。

なお、昆虫の同定では実体顕微鏡やミクロメーター（レンズに入れて使うものさし）による計測が必須の分類群も存在します。それらはいくらノートを用意して

も、機材がなければ手も足も出せません。中級者以上の昆虫好きの一つの目安が、実体顕微鏡を持っているかどうかといえるでしょう。

もっと難しい昆虫を調べる時は、標本を調べてスケッチを描く

私が専門とする寄生蜂のような昆虫では、神奈川県内にどのような種が分布しているのかもあまり判っていません。当然図鑑もありませんし、解説も私が書いたものなどが少しあるだけで、新種や新記録種も次々見つかる有様です。そのような難しいグループを調べるには、先ほど述べたノート作りのさらに先を行く必要があります。

まずどのような種が知られているのか、リストアップする地域を広くします。日本で多少とも先行研究例があるグループは日本のものをリストアップすれば大抵は足りますが、研究が不十分なグループではもっと広い範囲を調べます。生物の分布には国境が無いですが、生物地理区と呼ばれる、地球の歴史を反映したいくつかの分布の区域があります。神奈川県がある本州は旧北区という生物地理区に位置しますが、これには東アジアからヨーロッパまで広い範囲が含まれます。また、海流や台風で沖縄など南方からやってくる昆虫がいますが、沖縄は東洋区という生物地理区に属すため、インドネシアやベトナム、タイといった同じく東洋区に位置する南の国の生き物にも共通のものがいます。ですので、カタログやデータベースからこれらの地域にいる種を拾い上げていき、ノートにそれらの種の情報を付け足していきます。

資料や論文だけではわからない場合は、タイプ標本や参照標本を調べます。タイプ標本とは新種を記載したときに用いた標本、参照標本とは専門家が同定をした標本のことで、博物館にはこれらの標本が収蔵されています。標本を見ながら、じっくり観察をして、計測、写真撮影、スケッチなどを繰り返します。特にスケッチ（図2）は、細かな観察を伴う上、情報を単純化して表現・理解ができることから、高難易度の分類群を同定するときには、かなり有効な方法であるといえます。これらのデータを統合し、ノートに追加してやることで、同定のための資料を充実させていきます。つまり、良い資料が無いのであれば、百聞は一見に如かず、自分で実物を見て、自分で資料を作る、というわけです。この過程で既存の知見に間違いがあることが判明したり、新種が見つかったりと、新発見に繋がることもしばしばあります。

図3. ハナバチ類の参照標本コレクション. 現在までに日本産種の85％程度の種数を揃えることができた.

私の場合、このようなノートを作成したら、未整理の標本を用いて「試運転」を行います。試運転の結果、既存の資料よりも調べやすい場合は、解説記事として発表することもあります。このような試みを様々な人が繰り返してきたことで、より分かりやすい同定資料が出来上がっていくのです。皆さんが使う図鑑は、その営みが結実した一つの形であるといえます。

調べることは先人との対話

昆虫の名前調べのために、何度もじっくりと過去の文献を読み漁っていると、その研究者の癖とか、特有の言い回し、性格、苦労したと思われる箇所が、だんだん伝わってきます。極めて難しい昆虫を悩みながら調べているときなど、この困難に立ち向かった先人への敬意とともに、対話をしているような気持ちになることがあります。同定作業に限らず、何かを調べるということは先人との対話であると考えると、苦労して調べることも味わい深いことと思える（？）でしょう。

「答え合わせ」の場面で価値を増す、参照標本コレクション

ここまで同定について話をしてきましたが、報告を発表する時など、同定した結果が正しいのか否かを確認する、答え合わせの作業が必要となってきます。答え合わせを厳密に行うにはタイプ標本との比較が必要になりますが、この標本は極めて貴重なものなので、誰でも見られるものではありません。そのため、その分類群の専門家に確認をしていただくか、専門家が同定した標本と比べることで、答え合わせを行うことが多いです。専門家への依頼については、忙しい人も多く、どんな目的や内容でも対応してくれるわけではありませんし、高齢化で専門家がいなくなってしまった分類群も増えています。したがって、誰でも利用できる博物館に参照標本コレクションを揃えることは、生物多様性が注目される21世紀の世の中においては、極めて重要なことと言えます。

当館には幸いなことに収集活動により蓄積された標本資料や文献資料が多数あります。私はこれらを最大限活用して、特にハチ類の参照標本コレクションの構築を進めています（図3）。多くの方々のご協力を得て、県内はもとより、国内から知られる多くの種が揃ってきています。これらの資料が活用され、ハチ類の自然史研究がさらに進展することを願ってやみません。

後立山連峰のお花畑（広葉草原）ー地形と地質と植生とー

石田 祐子（学芸員）

北アルプスなどの標高の高い山の上では、夏の短期間に一斉に花が咲くことから、高山植物が群生する場所はお花畑と呼ばれます。鬱蒼とした樹林の中のぽっかり空いた場所や、それをぬけた先に広がるお花畑は、まるで別世界のように感じられるかもしれません。高山のお花畑には、様々なタイプがありますが、今回は、私の研究しているフィールドの1つである、北アルプス後立山連峰の亜高山性広葉草原植生（以下、広葉草原）についての研究成果を紹介したいと思います。広葉草原の代表的な花と言うとシナノキンバイやハクサンイチゲなどが思い浮かぶかもしれませんが（図1、2）、そのほかにも色とりどりの花が咲き誇る広葉草原があります。

多様な広葉草原

広葉草原はどのような場所（地形）で見られるのでしょうか。広葉草原は亜高山帯の雪崩の起こりやすい斜面に良く出現します。また、雪渓の周辺でも見られ、雪と強く結びついた植生です。

図1. シナノキンバイ

図2. ハクサンイチゲなどが咲く広葉草原. 白い花がハクサンイチゲ.

図3. 後立山連峰の広葉草原. 左：谷や凹型斜面, 中央：凹地, 右：稜線直下.

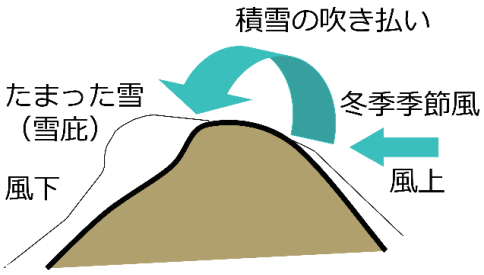


図4. 稜線付近の雪の動き. 風上側の雪が風下側に吹き飛ばされ雪庇が形成される.

山の斜面では、谷沿いや、お椀ですくったような凹型の斜面に、稜線近くでは凹地や稜線直下に見られます（図3）。一般に稜線直下は、雪が積もりにくいのですが、高山帯では強い季節風の影響で、風上側の斜面の雪が、風下側の斜面に吹き飛ばされ、風下側の稜線付近に雪庇が形成されることがあり（図4）、このような場所も広葉草原の生育地になっています。

後立山連峰では、標高1,500 m（山地帯上部）から、2,800 m 付近（森林限界より高いところ）まで様々な広葉草原が見られます。

また、地質が異なると、地面の物理性と化学性が異なってきます。物理性とは水捌けの良さや斜面の安定性など、化学性とは栄養分や重金属の量などの違いのことを言います。中でも蛇紋岩地は特殊岩地と言われ、マグネシウムが多くカルシウムの吸収阻害がおきること、光合成能力の低下などを招く重金属を多く含み、植物の生育に必要な栄養分が少ないことなどから、植物の生育が阻害されます。蛇紋岩地にはこれらの要因に耐性を持った植物が生育しています。

後立山連峰北部は、特に地質が複雑な地域で、広葉草原でも地質と対応した植生が見られます。シナノキンバイやハクサンフウロなどの出現する群落のように地質によらず広く分布している群落がある一方で、花崗閃緑岩地には、ヒトツバヨモギなどが生育する群落（図5a1、a2）、安山岩質の岩塊斜面にはオニアザミなどが生育する群落（図5b1、b2）、蛇紋岩地にはユキクラトウウチソウやカライトソウ、オオヒゲナガカリヤスモドキなどが生育する群落（図5c1～c3）が成立しています。

多様な植生を構成している植物たちのルーツはどこか？

高山植物は、地球が現在よりも、もっと寒かった氷期に複数回にわたって日本にやって来たと考えられています。間氷期（氷期と氷期の間の比較的温暖な時期）には、気温だけを考えると北アル

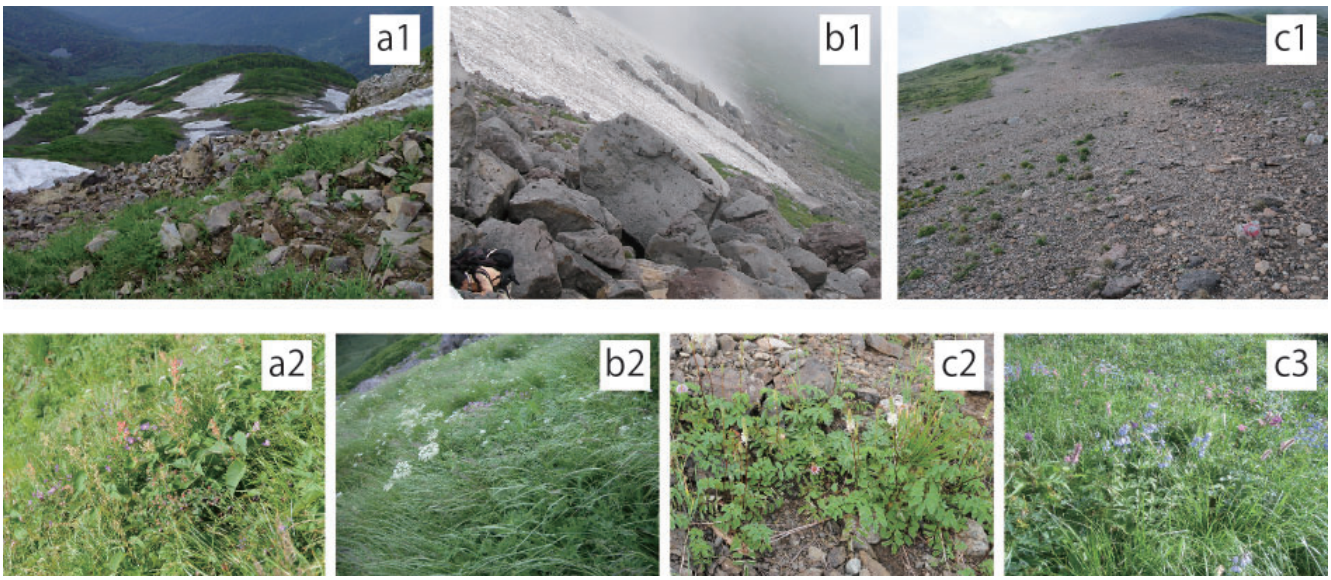


図5. 地質と植生. a1：花崗閃緑岩地の斜面, b1：安山岩質の岩塊斜面, c1：蛇紋岩地の斜面, a2：花崗閃緑岩地の広葉草原, b2：安山岩質の岩塊斜面の広葉草原, c2・c3：蛇紋岩地の広葉草原.

プスの山頂付近まで、森林が広がってもおかしくありません。しかし、北アルプスをはじめとする日本の中部山岳では、間氷期でも森林や背丈の高い植生が発達せず、さらに、蛇紋岩地のような特殊岩地には重金属に耐性を持った植物でないと生育が難しく、他の地質に比べ生育可能な植物が限られていたと考えられます。

後立山連峰という1つの山体に多様な広葉草原植生が成立していますが、その構成種のルーツは異なると考えられています。森林限界より上に成立する群落のうち、稜線直下の群落では北極周辺に共通種もしくは近縁種が分布する植物が多く、その他の群落ではアジアや太平洋周辺（日本からベーリング海を経て北米大陸）に共通種もしくは近縁種が分布する植物が多い傾向があります。森林限界以下に成立する群落や蛇紋岩地の群落は低山帯に近縁種が分布する植物や高山植物ではない低標高域の種が多いことがわかりました（図6）。

このように、広葉草原の構成種のルーツに標高や地形に応じた違いが見られます。このことは、広葉草原が現在に至るまでに何十万、何百万年という長い時間をかけて、雪崩斜面を本拠地としながら、多雪という環境傾度に沿って上は森林限界を超えた稜線付近、下は山地帯上部にまでその分布域を広げていることを示しています。

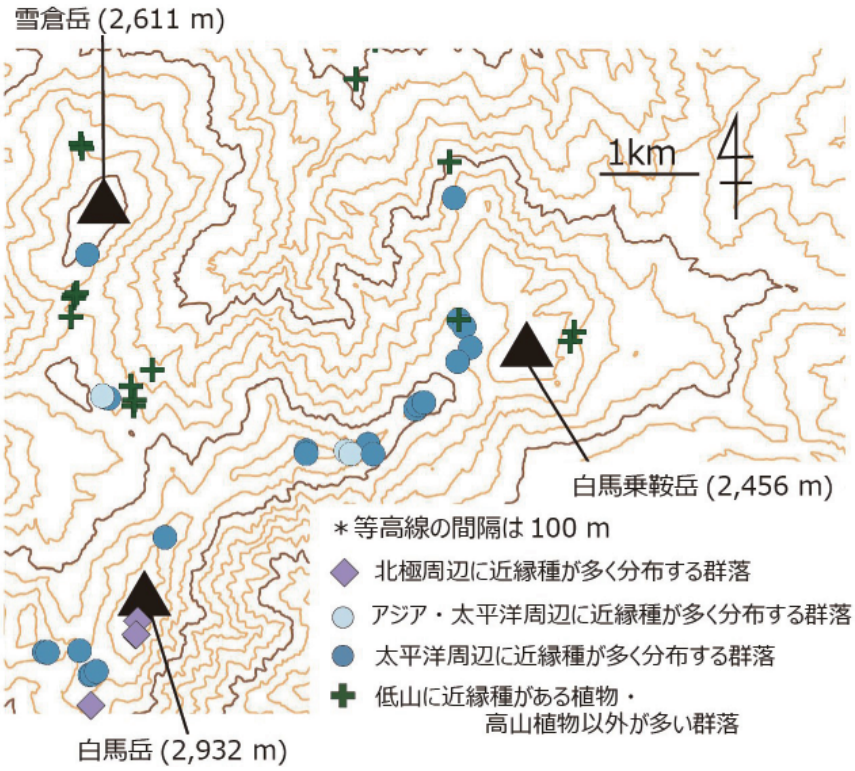


図6. 白馬岳周辺の広葉草原の分布.

参考文献

石田祐子 2023. 高山のお花畑 植物たちの逃避地. 愛しの生態系 研究者とまもる「陸の豊かさ」植生学会 編, 前迫ゆり責任編集, 92-97. 株式会社 文一総合出版. 東京

石田祐子・松江大輔・井上亮平・小松（谷津倉）勇太・武生雅明・中村幸人 2022. 北アルプス後立山連峰北部における広葉草原の種組成と成立要因. 植生学会誌, 39(1):15-29.

清水建美 1983. 原色新日本高山植物図鑑（Ⅱ）. 保育社, 大阪.

催し物のご案内

30周年記念特別展
「生命の星・地球博物館の30年
― 120万点から厳選した資料で振り返る ―」

2024年7月13日（土）～11月4日（月・振休）　9:00～16:30（入館は16:00まで）
休館日：7月16日（火）・9月2日（月）・9日（月）・10日（火）・17日（火）・24日（火）・30日（月）
10月　7日（月）・8日（火）・15日（火）・21日（月）・28日（月）

平成7（1995）年3月に開館した生命の星・地球博物館は、今年度開館30周年を迎えます。県立博物館から引き継いだ約20万点の資料でスタートした当館は「集める」「調べる」「伝える」の活動を地道に重ね、30年間で資料は約6倍の約120万点に達しました。30周年という区切りの年に、これまで集めてきた資料、学術活動の根拠となった資料、特別展や講座などで使用した資料を用いて、当館の活動を振り返ります。また、学芸員やご来館のみなさまが考える当館の未来像を展示し、館長からのメッセージをお届けします。

催し物の詳細や最新の情報は、当館ウェブサイト、および公式X（旧Twitter）でご確認ください。

生命の星

［公式ウェブサイト］https://nh.kanagawa-museum.jp/
［公式 X］@seimeinohoshiPR　［混雑情報 X］@seimeinohoshiCI
［問合せ先］企画情報部 企画普及課　TEL: 0465-21-1515

ライブラリー通信　「夜話」って何？

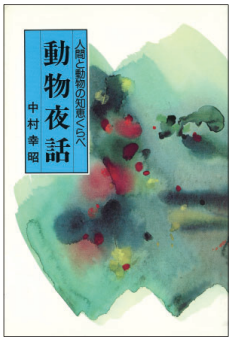
土屋（つちや） 定夫（さだお）（司書）

2023年12月に晶文社（しょうぶんしゃ）から『遺伝子が語る免疫学夜話』という本が出版されました。免疫は私たちの体を守る大事な機能であると共に、花粉症やアトピー性皮膚炎などの疾患で逆に苦しめられてしまうのも免疫が引き起こしていることです。その免疫の進化について書かれたものですが、今回は書名にある「夜話（やわ）」に注目してみましょう。

夜話の意味をご存知でしょうか？ 何となくわかるという方も多いと思いますが、国語辞典によると「夜間にする談話。気軽に聞ける話。また、そのような内容の本。」となっています。昼間の労働で疲れた体と頭には、難しい話よりは易しい方が良いですよね。さらに「夜話」には本という意味も込められていたのですね。つまり、「この本は難しいものではなく、やさしく書かれたものですよ。」と書名から教えているわけです。

国立国会図書館の蔵書検索で、明治から令和までの各時代で夜話のつく図書の数を調べてみると、明治時代は約25冊、大正時代は約60冊、以下昭和は750冊、平成は580冊、令和は既に70冊を超えていました。「夜話」って、もうほとんど使われないのかと思っていましたが、そんなことはなかったようですね。

当館でも数冊所蔵しています。ちなみに『細胞夜話』は「よばなし」と読みます。



葵通信社　1978年

パレード　2008年

≪ 事前申し込みの講座 ≫

詳細は、博物館ウェブサイトや催物案内をご覧ください。

●これ何の骨？ハ虫類の骨格を調べてみよう［博物館］
日時／7月13日（土）10:00～15:00
対象／小学4年生～成人　10人
申込締切：7月2日（火）

●きのこさがし［博物館および館近くの山林内］
日時／7月21日（日）10:00～15:00 ※荒天中止
対象／小学生～中学生　30人
※小学1年～3年生は保護者参加必須
申込締切：7月9日（火）

●鳥類の翼標本作製講座～鳥類標本作りに挑戦！剥製を作り残すための様々な工夫を学ぼう～［博物館］
日時／7月27日（土）・28日（日）9:30～16:00
※2日間の参加が条件です。
対象／中学2年生～高校生　12人
※参加者1名につき、保護者1名見学可。
申込締切：7月16日（火）

●クジラの「ヒゲ」を知ろう（1）・（2）［博物館］
日時／8月4日（日）（1）10:00～11:30
（2）13:30～15:30
対象／（1）小学1年～3年生とその保護者
（2）小学4年～6年生とその保護者
各5組20人
※（1）・（2）ともに保護者参加必須
申込締切：7月23日（火）

●あなたのパソコンで地形を見る（教員向け）［博物館］
日時／8月6日（火）10:00～15:00
対象／教員 12人
申込締切：7月9日（火）

●古生物学入門 ～哺乳類の四肢骨～［博物館］
日時／8月24日（土）10:00～15:00
対象／成人 12人
申込締切：8月13日（火）

●秋の里山の植物［横浜市］
日時／9月28日（土）10:00～15:00 ※雨天中止
対象／小学生～成人 25人
※小学生は保護者参加必須
申込締切：9月17日（火）

●ゾウの化石 ～頭骨を見てみよう～［博物館］
日時／9月29日（日）・10月27日（日）・11月24日（日）
10:00～14:00
※3日間の参加が条件です。
対象／高校生～成人 15人
申込締切：9月17日（火）

●川と用水路の生き物を調べよう［県西部］
日時／10月6日（日）10:00～14:00 ※雨天中止
対象／小学生～成人 20人
※小学生は保護者参加必須
申込締切：9月24日（火）

●きのこの観察と同定［博物館および館近くの山林内］
日時／10月6日（日）10:00～15:30 ※雨天中止
対象／小学4年生～成人　25人
申込締切：9月24日（火）

自然科学のとびら
第30巻2号（通巻115号）
2024年6月25日発行
発行者　神奈川県立生命の星・地球博物館
館長　田中 徳久
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL: 0465-21-1515　FAX: 0465-23-8846
編　集　本杉 弥生（企画普及課）
印　刷　株式会社あしがら印刷

© 2024 by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.